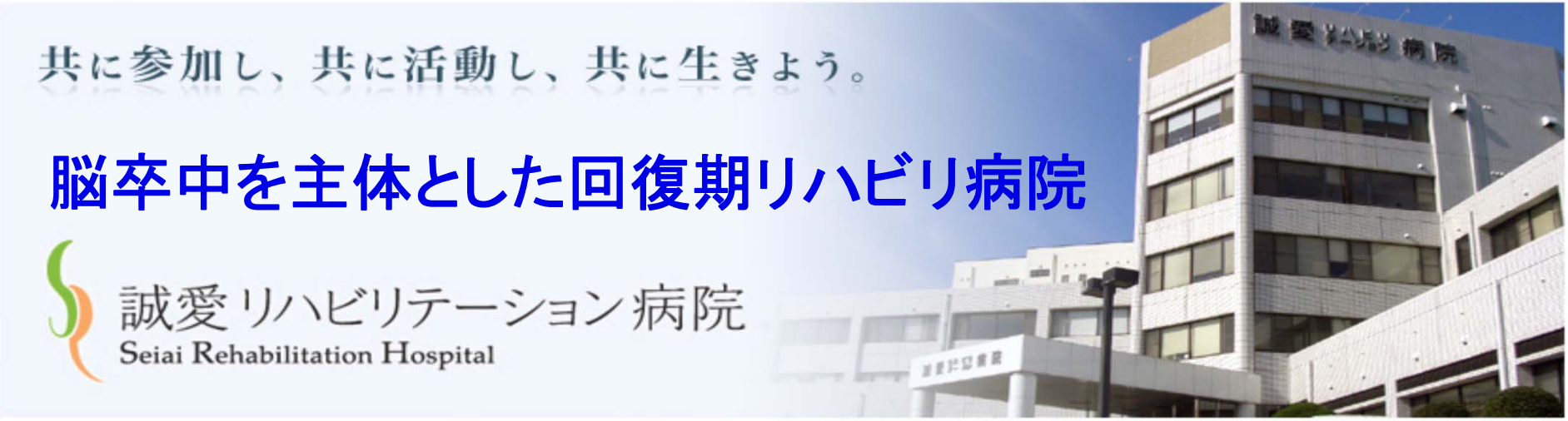
誠愛リハビリテーション病院

第56回誠愛院内勉強会:H25年度各部署の展望



日本 脳卒中学会認定研修教育病院

日本 老年医学会認定研修教育病院

日本 リハ 医学会認定研修教育病院

日本 医療機能評価機構 認定病院 --- H25年 再受審準備中

by 井林

Seiai Rehabilitation Hospital

新職員の皆さんは、当院のHPや昨年1月に開始した病院FBもぜひ覗いてみて下さい

〒816-0956　福岡県 大野城市 南大利 2丁目 7番 2号

各部署からの今年度の目標/方針

各部署から、例年とはメンバーを違えて、オリジナルの話題提供をお願いしました

1）はじめに	－H25年度（赴任6年目）の軌跡と展望－	井林院長	5分
2）医局		渡邊前医局長	5分
3）看護部		吉村次長	5分
4）リハビリ部		赤松部長	5分
5）福祉部		金沢MSW	5分
6）管理部		村瀬課長／守係長／坂口係長	5分
7）カトレア		大庭部長	5分
8）小児部門		佐竹先生／黒川名誉院長	5分
9）総評		小野山理事長	

Seiai Rehabilitation Hospital

H20年度以降 5年間の実績

この5年間（H20年度以降）の実績（建設期）

〇行政や時代に適合しつつ、安全かつ全人的なリハ医療の提供。

〇多職種による”チーム医療”を目指し、FLEXリハ、365日リハを実現。

〇電子カルテ充実とともに、生理検査、画像データの電子化への取り組み。

〇医局（専門医受験、論文執筆）ひいては他部署の活性化、勤務効率upに注力。

● 福祉部、看護部、リハ部、医事課、医局のSWEAT*チームによる入院検討委員会を設置。
入院後の転倒/骨折などの可能性のICを得た上で、在宅復帰の意思を確認。
家族との前面談＋入院をASAPで受け入れるシステムとした。* Seiai Work/Enjoy/Activate Together

年間入院患者総数（カッコ内は急性期病院からの紹介入院受容率）

H20年度 589名： H21年度 663名： H22年度 679名 -- ただし,ここまでは実際入院患者総数のみ

H23年度 786名（受容率 646/786=82.2%）: H24年度 809名（受容率 677/809=83.7%）

● 摂食嚥下チームEST#委員会を結成し、EST回診を新設。# Eat Swallow Team
＋ FLEXリハ & 365日リハで → FIM改善率や重症者改善度、在宅復帰率は軒並み大幅改善！

● 職員が情報を共有し報連相を徹底するために部署間連絡会議を設け、毎週問題につき討議。

● 国内外の学会/研究会での発表が増加、全職員対象の毎月の誠愛院内勉強会も定着。

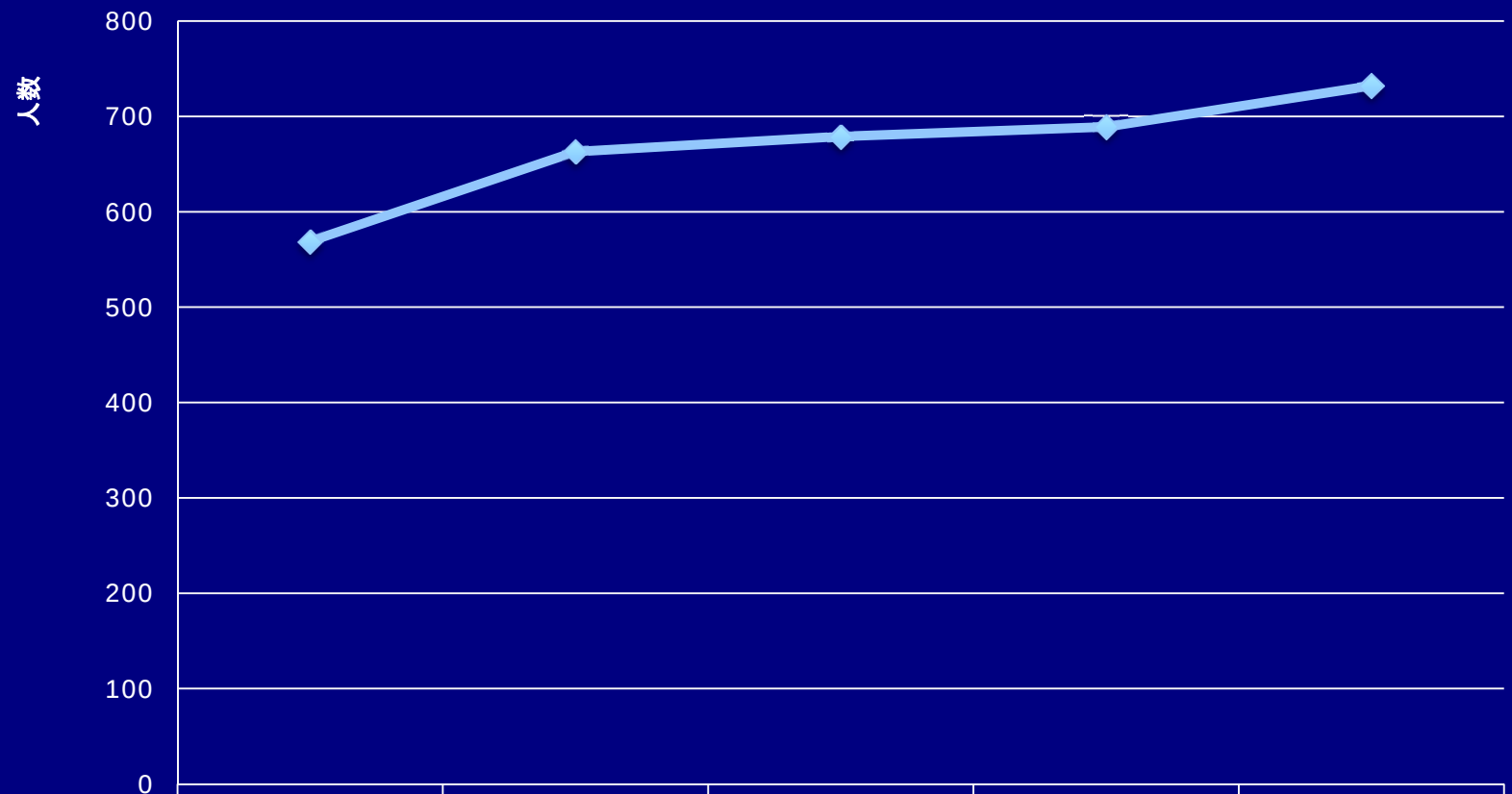
● 出産子育てを行う女性職員のための病院託児所を新築移転、働きやすい環境を整地。

Seiai Rehabilitation Hospital

誠愛リハビリテーション病院

H20年度以降の年間総入院患者数

総入院患者数（年）の推移

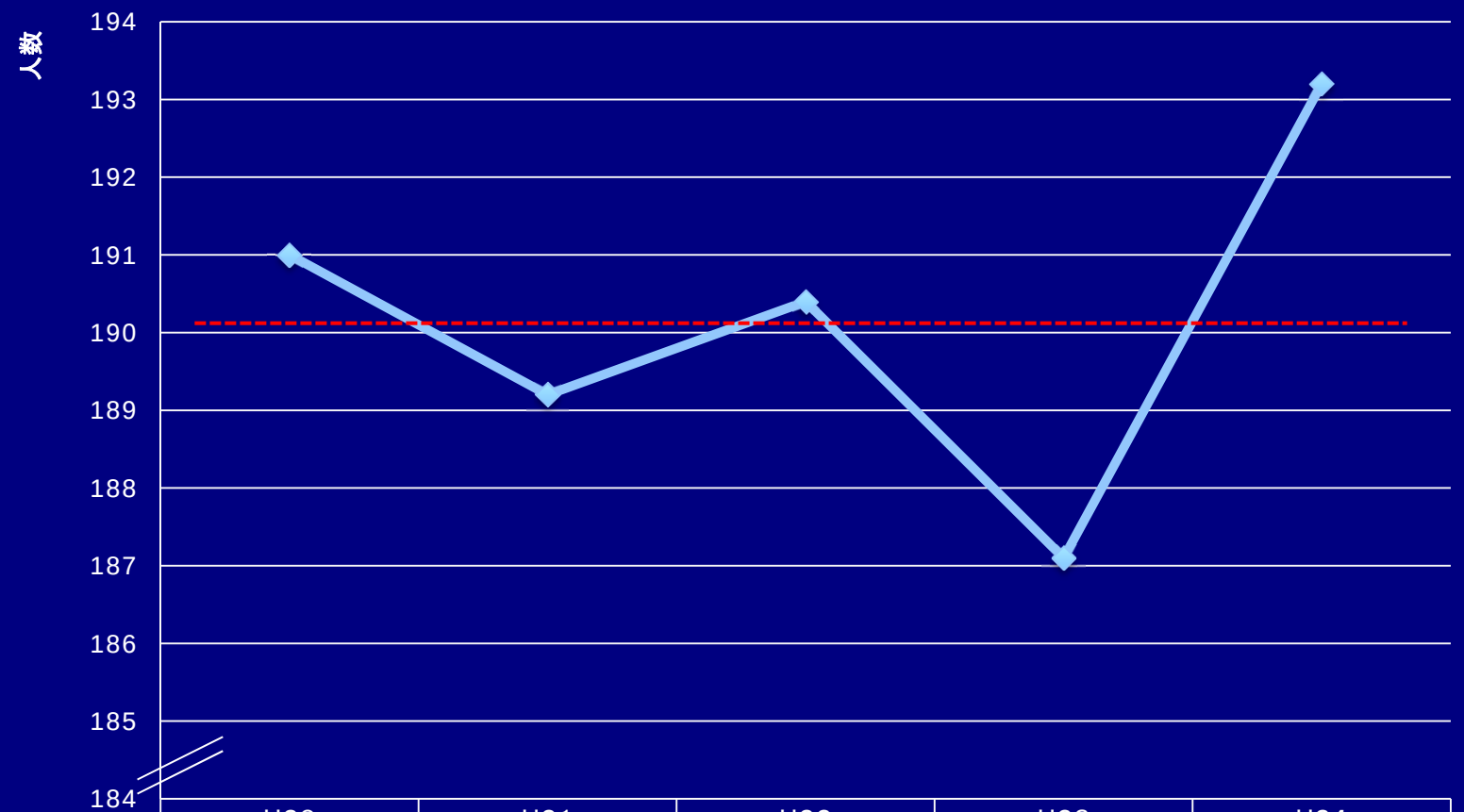


	H20	H21	H22	H23	H24
総入院患者数（年）	569	663	679	689	732

誠愛リハビリテーション病院

H20年度以降の一日平均入院患者数

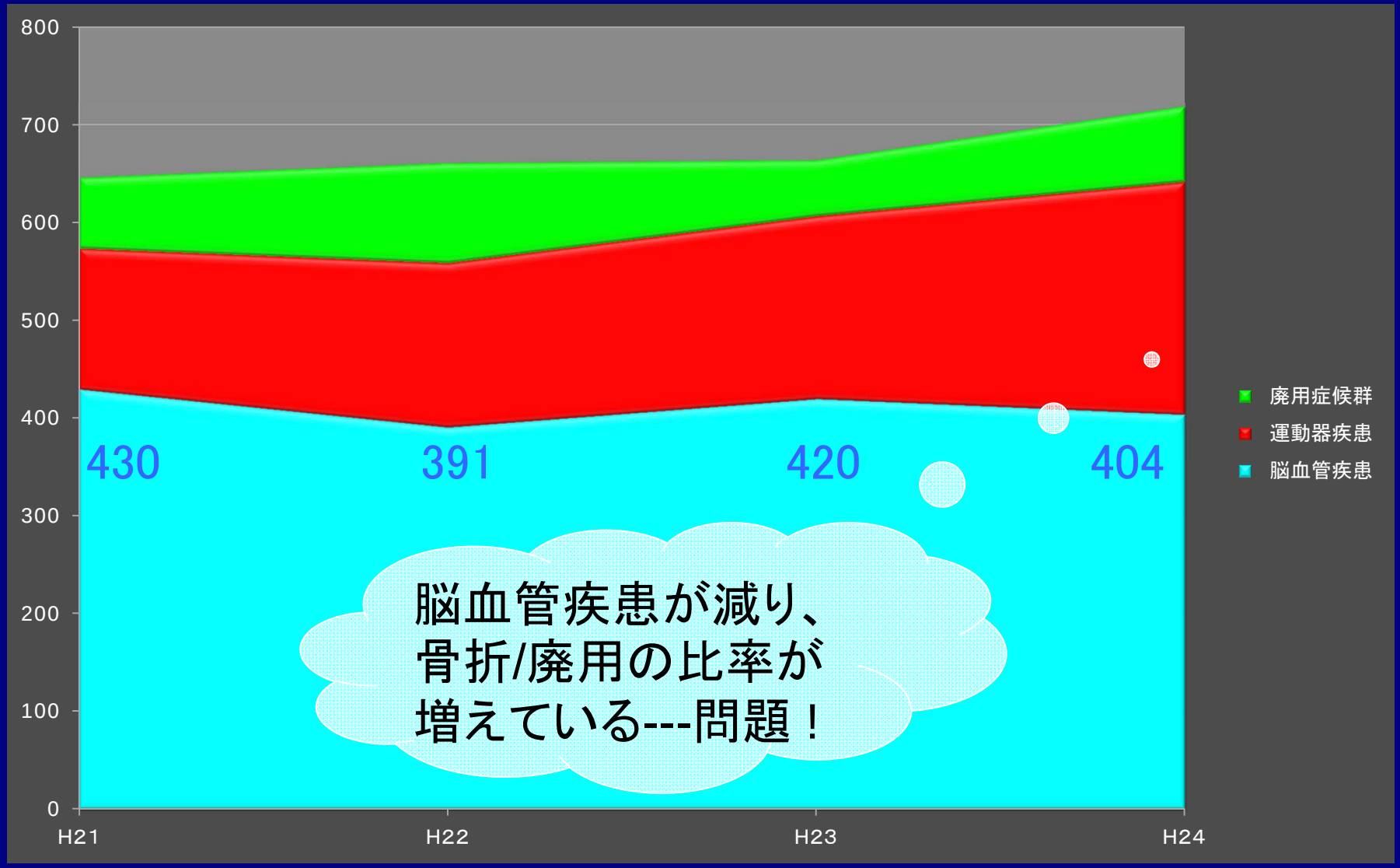
平均入院患者数（全病棟210床）



	H20	H21	H22	H23	H24
平均入院患者数（全）	191	189.2	190.4	187.1	193.2

誠愛リハビリテーション病院

H21年度以降4年間の疾患別入院患者数



誠愛リハビリテーション病院

H25年度のこれからの展望

平成25年度以降の新たな展望（活動期 – 今後5年間）

○病院機能評価再受審を念頭に、各種委員会メンバーを交代、会議の実質合理化を図る。

○低被爆CT診断装置の投資計画に賛同し、新規入替えを検討。

○患者に優しい医療を常に意識しながら、民間ならではの楽しい工夫と小回りの効くフットワークの良いサービスを提供。

○当院 Original Rule Book（職員ハンドブック）を作成、常に明るく元気に楽しく働くことのできる健全な職場を目指す。

○今年度末の入院数確保に現時点で何が必要なのか、新規急性期病院との連携（地域連携強化委員会立ち上げ）、摂食嚥下(EST)入院／脳卒中Tune-Up入院などの対策を検討し実践する。

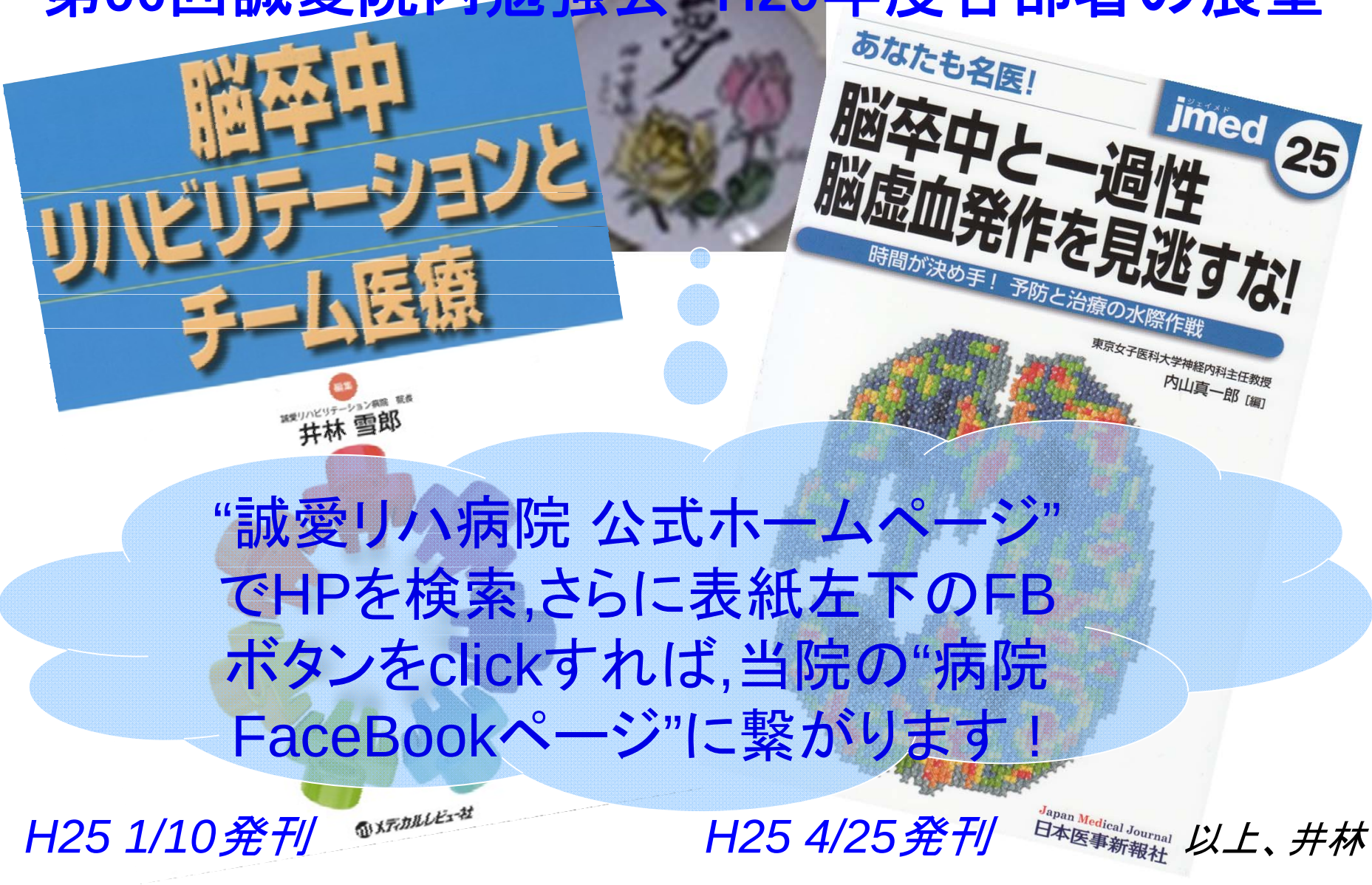
○充実加算取得 実現に向けセラピスト勤務調整等をシステム化し効率を上げて行く。

○小児外来リハの見直しと将来展望（医師会小児科パスなど）

誠愛リハビリテーション病院

誠愛リハビリテーション病院

第56回誠愛院内勉強会　H25年度各部署の展望



“誠愛リハ病院 公式ホームページ”でHPを検索,さらに表紙左下のFBボタンをclickすれば,当院の“病院FaceBookページ”に繋がります！

H25 1/10発刊　　*H25 4/25発刊*

以上、井林

1988年
誠愛病院
開設

1993年
誠愛リハビリテーション病院
に改称

2002年
回復期病棟開設

2006年
回復期病棟第二次増床

2007年
小野山理事長就任

2008年
井林院長就任

5 10 15 20 25

2010年
セラピスト病棟専従制
フレックス･リハ
部署間連絡会議
外来リハ検討会議
入院検討委員会

2011年
回復期365日リハ体制
入院前面談
外来医長新設
リハ学会研修指定施設

2012年
病棟医長新設
「朝感」

2013年
短時間通所リハ
回復期病棟充実加算

渡邊義将

食べることを基点とするADLの階層性

↓

医局発の基本コンセプト

- 2008年　NST発足
  :
- 2011年12月　MNA導入
- 2012年3月　段階的嚥下食導入
- 2012年5-7月　口腔ケア研修
- 2012年8月　摂食嚥下リハビリテーション研修＆勉強会
  STによる口腔・咽頭吸引の実施
- 2012年9月　EST発足
- 2012年12月　EST院外研修
- 2013年3月　高齢者サルコペニアに関するシンポジウム

大切なのはコンセプトの共有

基本を考え直す＝「医師間格差」の縮小

診る、聞く、話す、挨拶する

木も森も見る (疾患、栄養、こころ、社会背景…)

リハのことをもっと勉強する

平成25年度　看護部活動目標

1. 安全で質の高い看護・介護の提供
2. 業務改善で活気ある職場づくり
3. 経営的視点に立った部署の運営
4. チーム医療の推進

平成25年4月16日（火）
吉村　綾子

1. 安全で質の高い看護・介護の提供

- 転倒転落事故の減少
  平成24年度　転倒件数275→261件で前年比5%減少
  平成25年度　前年比5%減少を目標

- 看護研究の推進と研修会への参加
  平成24年度　学会発表 3件　院外の研修会参加57件180人
  平成25年度　学会発表 5件　院外の研修会参加60件200人

2. 業務改善を行い活気ある職場づくり

- 各病棟で3例以上の業務改善に取り組む

- ワーク ライフ バランスの推進

3. 経営的視点に立った部署の運営

・医療材料のコスト意識を徹底し、無駄使いを削減する

・業務改善を行い、超過勤務時間の削減を目指す

4. チーム医療の推進

・病棟チーム制の特徴を生かした多職種との勉強会や症例検討

・退院後の在宅生活の支援として、入院中・退院後の家庭訪問の実施

2013年度　リハビリテーション部の活動目標

Seiai Rehabilitation Hospital

１．入院・外来診療への適切なセラピスト配置と診療体制の充実

２．安定かつ効率的な収益の確保

３．臨床に根ざした教育・研究体制の充実

４．安全なリハビリテーションの提供

５．病院機能評価の受審の準備を進める（2013年10月予定）

リハビリテーション部　赤松　泰典

2013年度　リハビリテーション部の活動目標

1．入院・外来診療への適切なセラピスト配置

- 入院診療　　86名→99名
  1病棟　24名　2病棟　24名　6病棟　22名を配置

- 外来診療　　成人14名→7名　小児20名→16名　計23名

（2012年4月➡2013年4月の配置人数を比較）

- 休日リハ提供体制加算は、現状人数のまま、単位の休日 へのシフトで実施可能。ただし、専従登録の数の増加や、休日の管理体制の強化が必要(リスク管理等)
- リハ充実加算(1日1患者6単位以上のリハ実施)は、H23 年度リハ部配置にて、ぎりぎり可能であるが安定して取 得するには、各病棟1~2名ずつの増員が必要と考える。
- 5名程度の回復期スタッフの増員に対し、外来患者の調 整による可能化の検討が必要。

（2011年度院内勉強会　渕副院長発表資料より引用）

さらに外来診療においては

リハ実施回数・期間の見直し、新たな機能とルールがほぼ固まってきた
2014年4月には介護保険対象者の13単位までのリハが廃止される予定。
それまでの体制づくりの準備は着々と進んでいる
さらに今年は外来継続する患者さんの治療を質の高いものにする取り組みが必要

2. 安定かつ効率的な収益の確保

2011年休日加算　回復期病棟での365日体制の確立

2013年5月充実加算の取得へ

（2012年6月より1病棟が体制づくりと試運転、
2013年4月が実績作り、現在回復期病棟平均6.2単位）

休日リハビリテーション提供体制加算	**(休日を含み7 日/週) 60点/1日**
リハビリテーション充実加算	**(一日6単位以上) 40点/1日**

昨年の目標はセラピスト一人当たり15.4単位　達成率は94.1%であった

3. 臨床に根ざした教育・研究体制の充実

- リハ職員教育（新人勉強会、症例検討会＋勉強会（ 2012年度は約110回）、SVによるスタッフ教育など）
- 卒前教育（臨床実習生の指導・教育）
- 卒後教育（外部交流を伴った研修会、2012年度は3件）
- 研究（2012年度学会発表は21件）

4. 安全なリハビリテーションの提供

- 月別転倒・事故の全体件数

2009年度23件、2010年度20件、2011年度20件、2012年度14件
（ 2012年度　月に0～3件、3件→2月　2件→8月、10月、3月）

- 年2回の事故対策の勉強会の実施

5. 病院機能評価の更新（2013年10月予定）

- リハビリテーション病院（3rdG：Ver.1.0）の受審にむけて準備を進めていく

入院

在宅復帰率向上と安定した病床数の確保

①入院支援

・入院相談（病院・患者家族からの入院相談・必要情報の収集）
・インテーク（入院面談）
・入院日調整（患者の退院日把握・患者・家族各部署への連絡）

⇒病床数　　１９５床

福祉部　金沢　由貴

②退院支援

- アセスメント（退院にあたって問題点の把握）
- 院内連携（カンファレンスや朝ミーティングの参加）
- 社会資源の活用（介護保険法・障害者総合支援法・身体障害者手帳など）
- 地域連携（各事業所とのサービス調整・サービス担当者会議など）
- 退院後の家庭訪問

⇒回復期病棟在宅復帰率　８５％

福祉部

外来

成人

・外来リハビリ終了患者に対して円滑な支援（社会資源の案内・通所リハへの移行）

・書類相談に対して計測・受診支援（介護保険・身障手帳・障害年金）

小児

・書類相談に対して計測・受診支援（身障手帳・療育手帳・特別児童扶養手当）

⇒患者満足度の向上

福祉部

平成25年度
第1回誠愛院内勉強会

平成25年度の展望

管理部　検査　　村瀬 朗
薬局　　守 秀夫
放射線　坂口 龍子

平成２５年4月１６日（火）

検査

平成２４年度の報告

- 購入金額の平準化（７５）
- 検査の情報発信（９２）
- 病院機能評価の準備（４２）
- 知識の習得（５０）

平成２５年の展望

病院機能評価準備

→ マニュアルの改訂

→ 検査法の見直し

→ 検査機器の整備

継続

- 検査の情報発信
- 知識の習得

薬局

１　医薬品情報の発信

現状　：　患者さん向けDIニュースを毎月発行している

本年度　：　上記に加え、新規採用薬の情報を院内へ発信していく

２　在庫管理の標準化

現状　：　毎日、使用した薬剤をその都度発注しており、月ごとの購入金額にバラつきがある

本年度　：　月々の購入金額を出来る限り平準化する

放射線

平成24年度の結果

- 再撮影回数を月25回以下に減らす　⇒83%
- 画像フィルムを月600枚以上デジタル化　⇒83%
- PACSへの画像読み込み

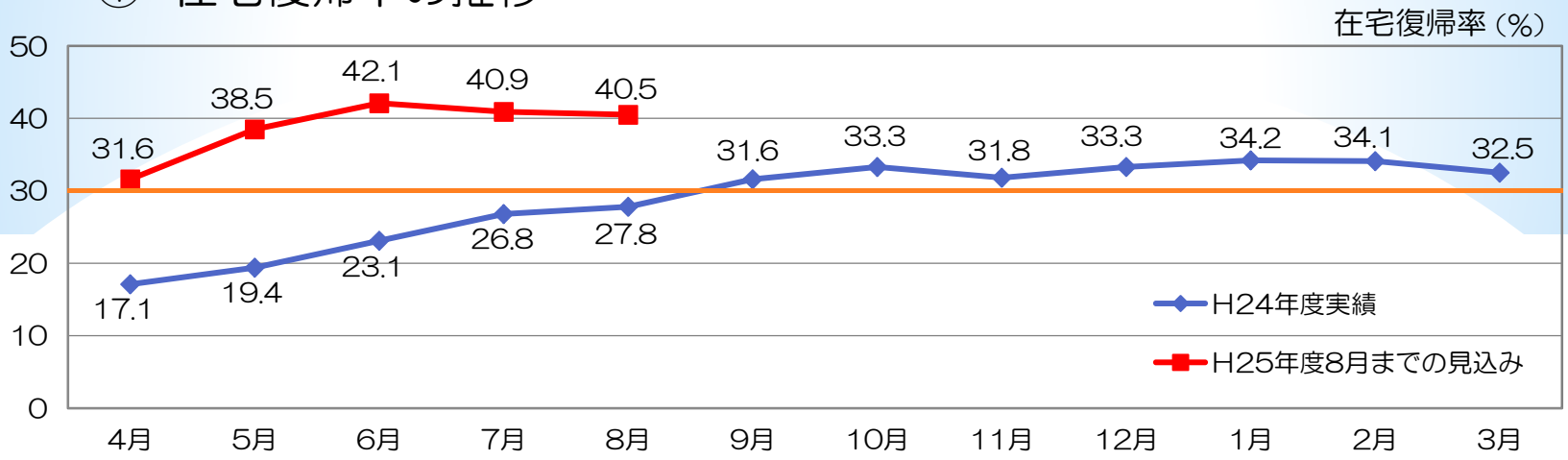
平成25年度の目標

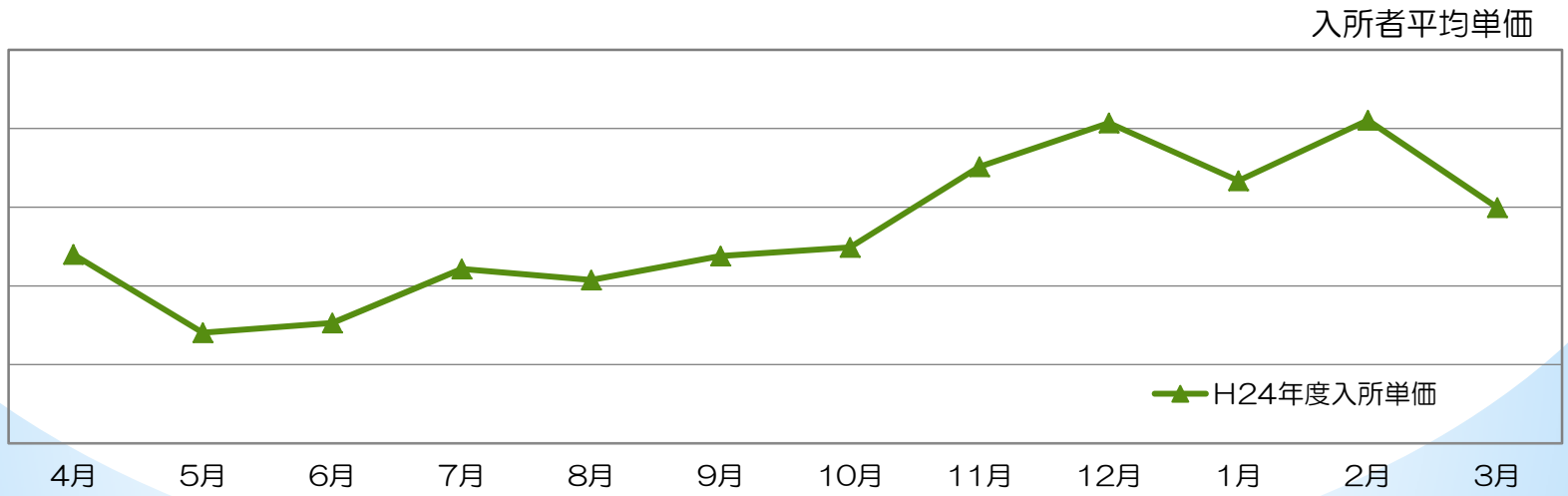
- 機能評価受審に向けての準備
- 再撮影回数を月20回以下に減らす
- MRIフィルムをPACSに読み込む

介護老人保健施設カトレア

１．平成２４年度の実績と平成２５年度の目標

①　在宅復帰率の推移





管理部　大庭　慎也

まとめ

①老健の理念である「在宅復帰」の強化

②体制変更による稼働率の向上

③利用者様のニーズに応え、職員の業務効率をあげるための設備の変更や器具の充実

平成23～24年度に小児部門で行われた事

- 新患受付一時停止

  H23.9受付中止　H24.2診療中止　H24.9再開、80人待機
- リハ基準で年齢制限、リハ種目の制限

  H24.4のルール確定・開始
- フィットネスあいあいキッズ設置

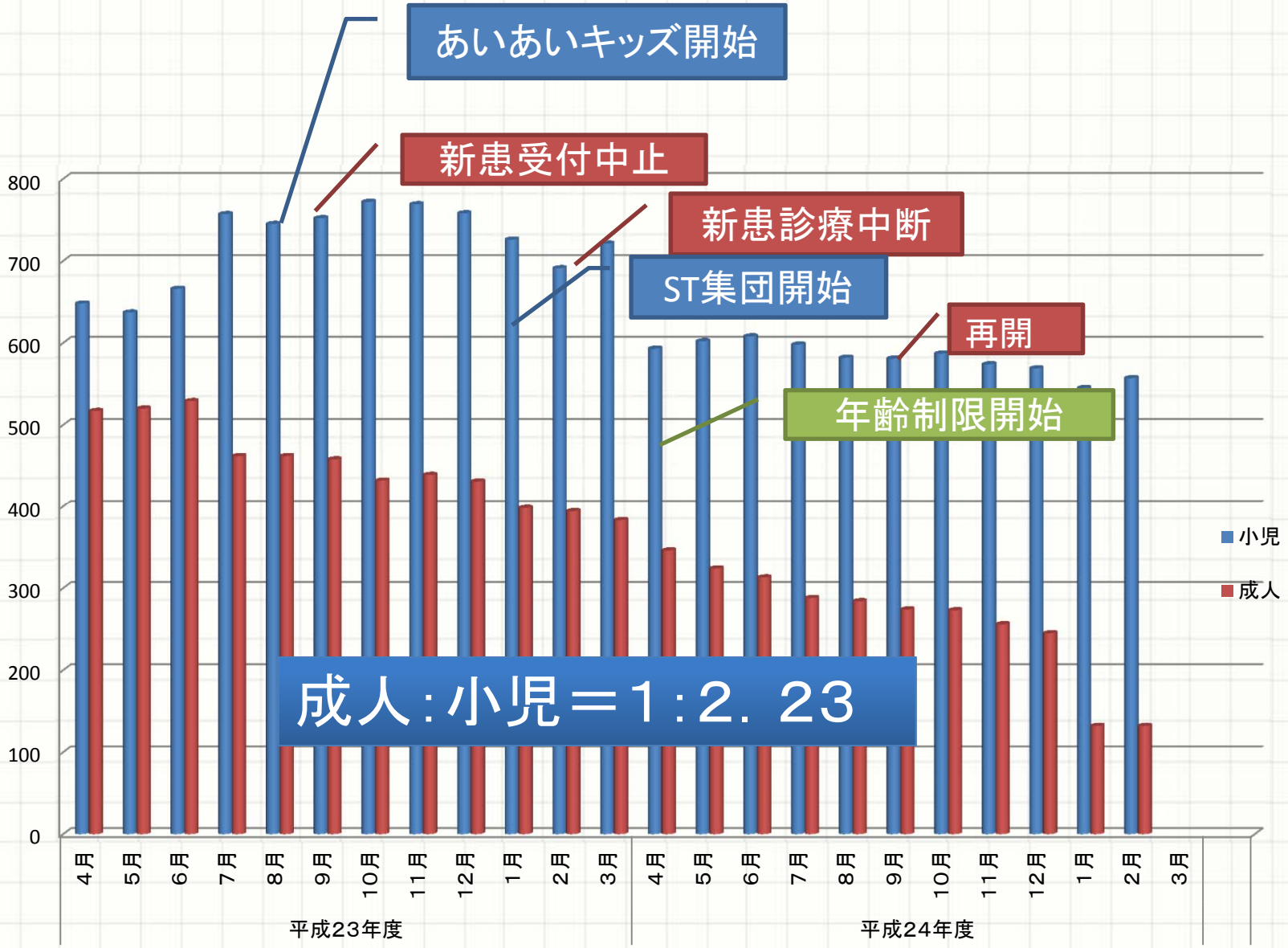
  H23.8開始、26名登録、5グループ
- ST集団療法のグループ設置

  H24.1開始、4グループ、約15人
- 新患カンファランスの定常化
- 装具・リハ機器完成までの期間

  最長295日、平均140日
- 土曜日外来リハの中止
- 大川先生（大阪から）の来診終了

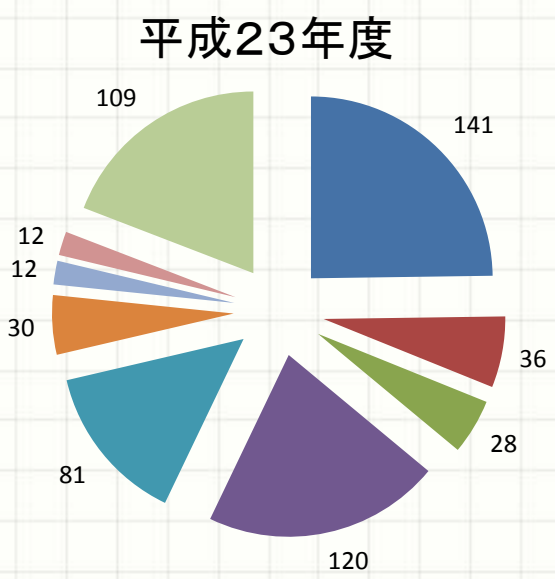
医局　佐竹　孝之

月別外来リハビリ患者数（H23年度～H24年度）

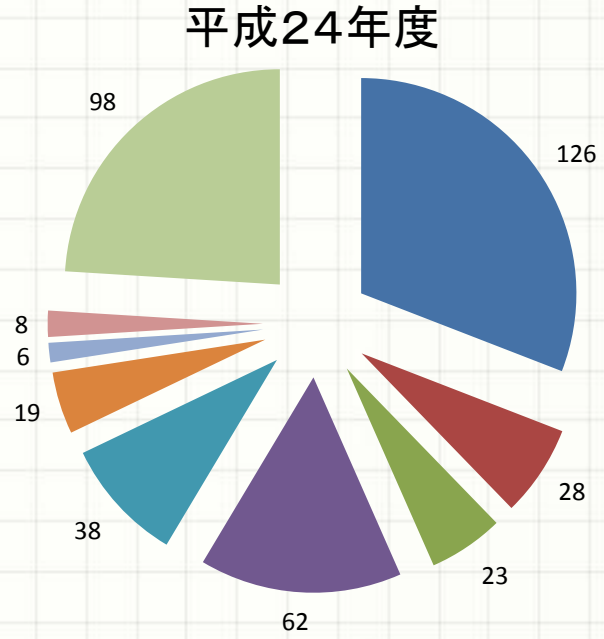


成人：小児＝1：2．23

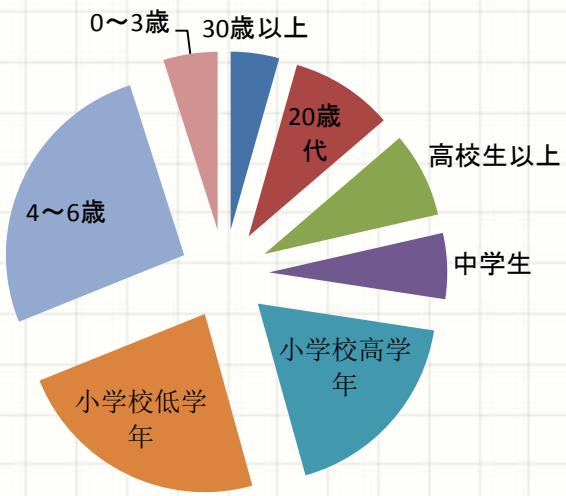
疾患別

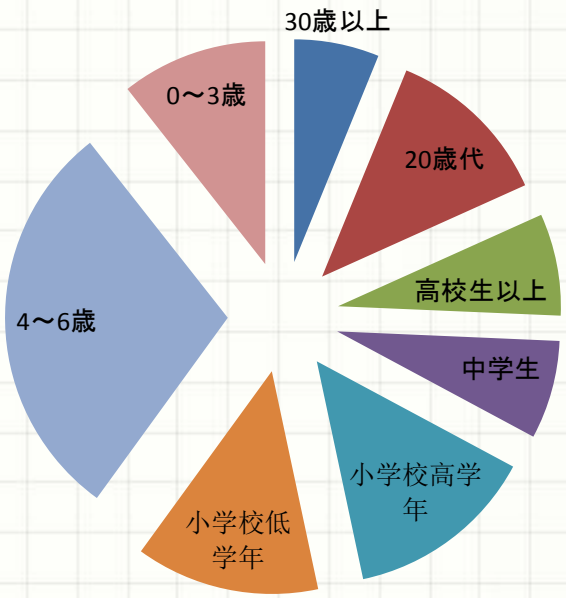


- 脳性麻痺
- 精神運動発達遅滞
- 混合性特異的発達障害
- 広汎性発達障害
- 精神発達障害
- ダウン症
- アスペルガー症候群
- ＡＤＨＤ
- その他



年齢別





今後の展望

小児部門と成人部門の比率

小児部門の年長の方々への対応

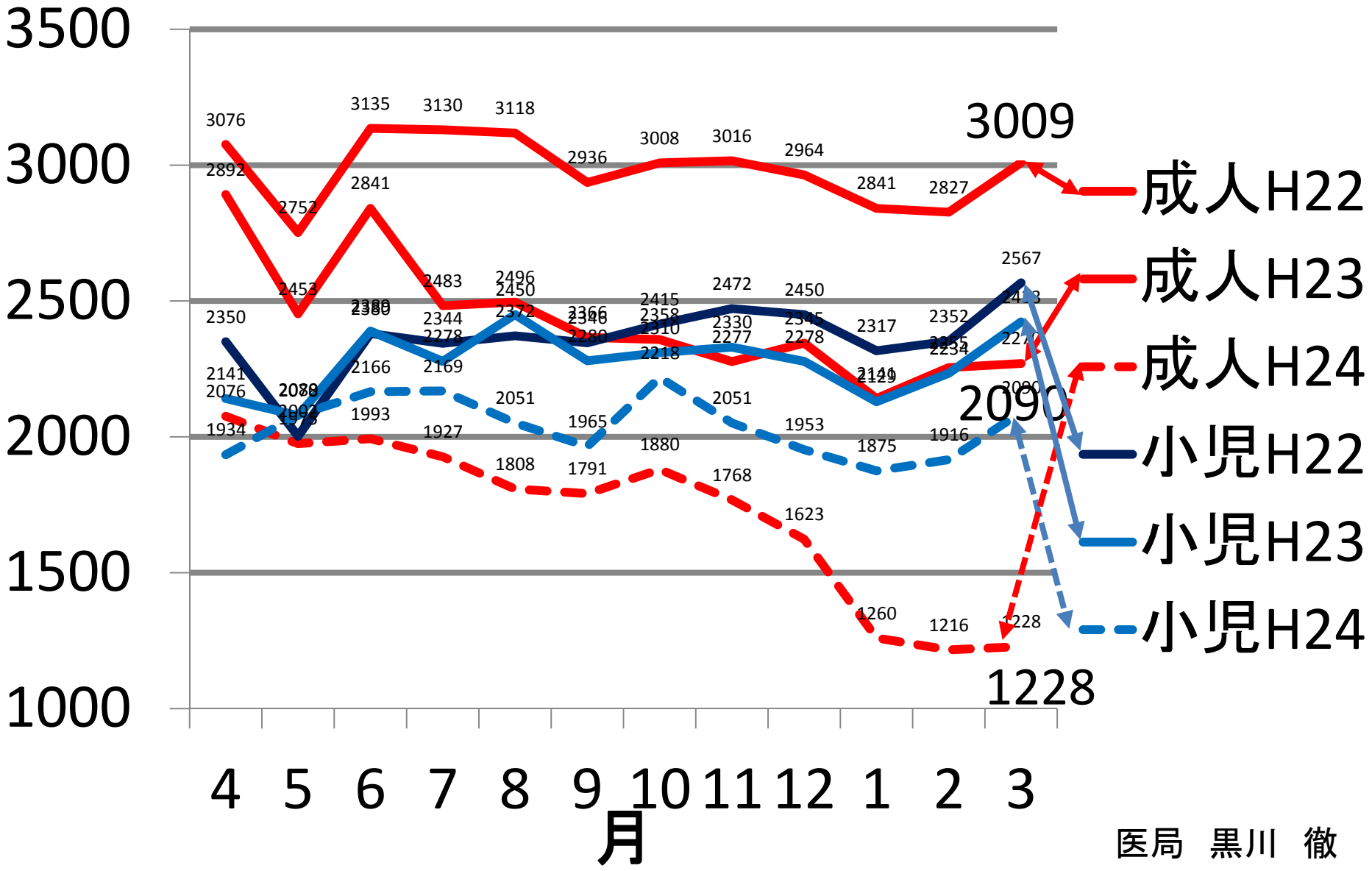
当院における小児リハビリテーションのコンセプト⇒療育施設ではない

的確な評価と明確な目標/共有
WeeFIM、GMFM、PEDI etc

装具・機器作成の迅速化

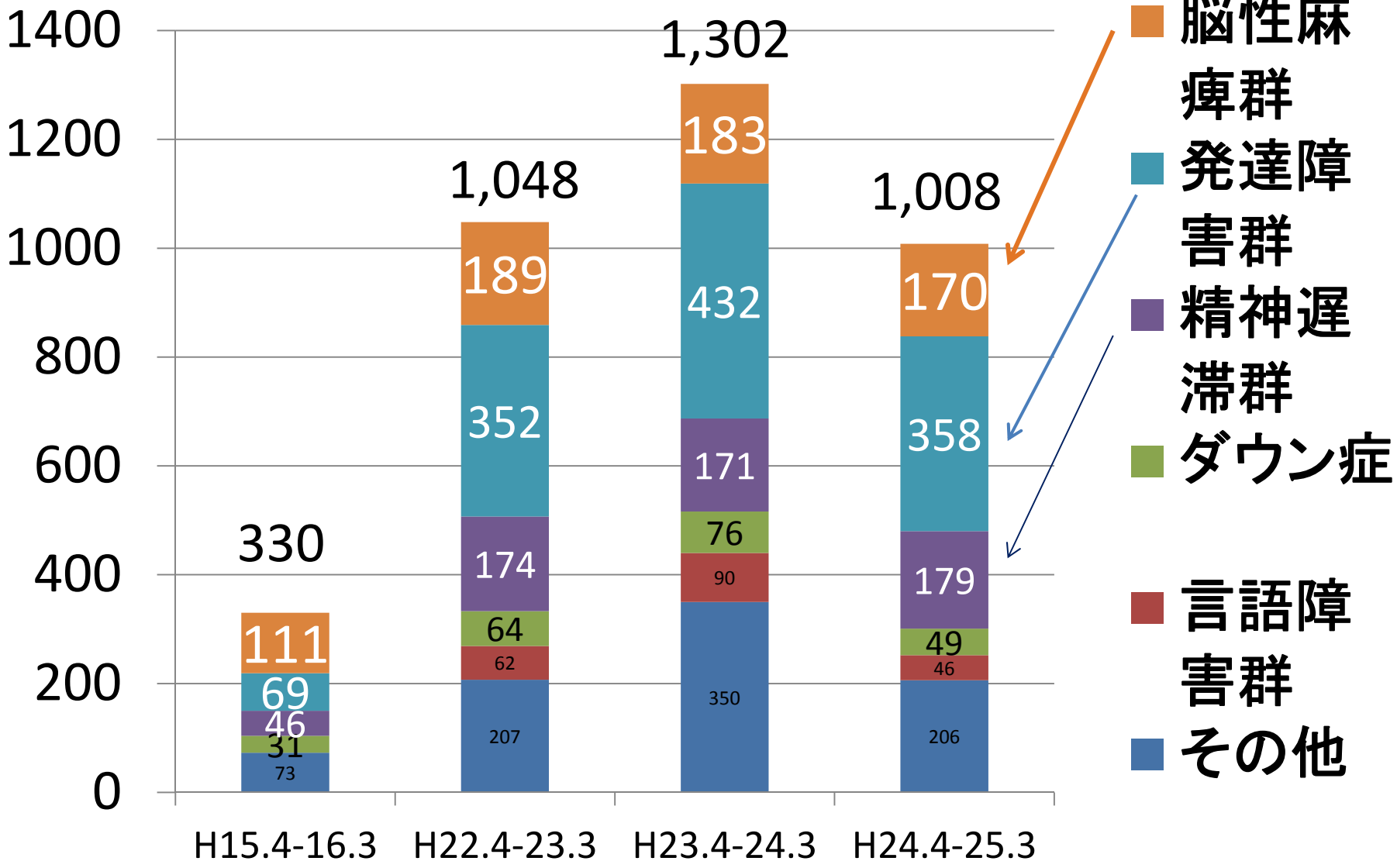
小児リハのチーム・スタッフのスキルアップ

外来患者数


3500
3000
2500
2000
1500
1000
4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
月
3009
2090
1228
成人H22
成人H23
成人H24
小児H22
小児H23
小児H24

医局　黒川　徹

小児外来実患者数


1400
1200
1000
800
600
400
200
0
330
1,048
1,302
1,008
111
69
46
31
73
189
352
174
64
62
207
183
432
171
76
90
350
170
358
179
49
46
206
H15.4-16.3
H22.4-23.3
H23.4-24.3
H24.4-25.3
脳性麻痺群
発達障害群
精神遅滞群
ダウン症
言語障害群
その他

平成24年度の動向・今後の予定

脳性麻痺リハビリ診療の充実

発達障害患者需要の増加

小児勉強会

遠城寺式乳幼児発達検査法の用い方

発達障害における知能或いは自閉症状・注意力の治療による変化

脳科学からみた読み・書き・算数の発達